

「自然広場から： 近隣の自然の変化に目を向ける No.28

秋なのに；秋なので Despite autumn; it's now autumn」

2020年10月10日

あの暑さがウソのように涼しくなった。秋分からもう 20 日も過ぎたのだから当然で、半袖姿では寒く感じる。周囲を見れば、秋なのに桜、ボケの花が咲いているではないか。初夏の花・待宵草、ブラシノキも。いわゆる“狂い咲き”？と思い、調べてみると、桜の方は、今が咲き時の十月桜（交配種で 4 月にも咲くと言う）。ボケもキンシバイも狂いではなく“返り咲き”であることが分かった。待宵草よりも小型の雌待宵草は開花期が 9 月迄とあったのでただの遅咲きか。尚、オーストラリア原産のブラシノキ、南国のブーゲンビリアが開花する理由は不明であった。朝顔は 7～10 月迄咲くことが調査済みであったが、昼顔はじめ地面に這うように咲くマメ朝顔と仲間の羽衣ルコウソウ(学名に注目)に出会えた。

秋なのに、と想うのは人間の身勝手に、草花たちは自然環境のしくみと気温変化に合わせて、けっこう逞しく生きている事実を見せられた感じだ。

秋を象徴する花と言えば、コスモス、甘い芳香を放つ金木犀を挙げることができるだろう。実は、芦花公園の花の丘にはコスモス畑が 2 面あるのだが、なぜか 9 月中は早咲きの花が数本見られたただけであった（10 月に咲くかも不明）。その代わり、近隣には黄花コスモスが見事に咲いている。

金木犀は、園内でも近隣でも、例年になく花が木全体を覆うほど豊かで、香りを周りに放っている。個人的には、香りを嗅ぐと高校時代の秋の文化祭を思い出す。一方、同時期に咲く銀木犀の香りは、澄んでいて上品な感じがする。ムラサキシキブが弓なりに深い紫色の実を垂れている姿は、その名の通り優雅で美しい。

http://sengawacx.com/LookNatureNo28_2020.jpg